4月19日第3主日礼拝　列王記第一8章1－5節　説教「旧約の民と新約の民」

今日はⅠ列王記8章前半1－30節から「旧約の民と新約の民」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 契約の箱　1－11

1－11は、ソロモンの神殿が完成した後、契約の箱が神殿の一番奥の至聖所に運び込まれる出来事です。

1-5【1 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムのソロモン王のもとに召集した。ダビデの町シオンから主の契約の箱を運び上げるためであった。2 イスラエルのすべての人々は、エタニムの月、すなわち第七の新月の祭りにソロモン王のもとに集まった。3 イスラエルの長老全員が到着すると、祭司たちは箱を担ぎ、4 主の箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。5 ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、ともに箱の前に行き、羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。】

ソロモンの父ダビデは、契約の箱をエルサレムの南側にあるダビデの町に運び込んでいました。神殿が完成した時、ソロモンは契約の箱を神殿の至聖所に運び込みます。契約の箱が至聖所に置かれることによって、神殿は神が臨在される場所として完成します。ソロモンは、イスラエル各部族の長老全員をエルサレムに呼びました。それは神殿完成を全イスラエルが祝うためです。長老全員が到着すると、祭司たちは契約の箱についている担ぎ棒を担ぎ、神殿に向かいました。また同時に、ギブオンにあった幕屋の聖なる用具も一緒に運びました。契約の箱が神殿まで運ばれてきた時、数えきれない羊や牛のいけにえがささげられました。

6-11【6 祭司たちは、主の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。7 ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げるのである。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。8 その担ぎ棒は長かったので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。9 箱の中には、二枚の石の板のほかには何も入っていなかった。これは、イスラエルの子らがエジプトの地から出て来たとき、主が彼らと契約を結ばれた際に、モーセがホレブでそこに納めたものである。10 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が主の宮に満ちた。11 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである。】

祭司たちは、契約の箱を至聖所の真ん中、二つのケルビムの翼が重なる下に運び入れました。契約の箱の中には、モーセがシナイ山で神からいただいた十戒が刻まれた二枚の石の板が入っていました。ヘブル9:4には箱の中には二枚の石の板のほかに、マナの入った金の壺と芽を出したアロンの杖も入っていたとあります。けれどもソロモンの時代には他の二つは取り除かれ、十戒が刻まれた二枚の石の板だけが入っていました。十戒は神の民が律法を守ることによって神の祝福を受けるという古い契約、旧約の中心にある律法です。そこで十戒が刻まれた石は契約の石と呼ばれ、この契約の石が入っている箱を契約の箱と呼びました。祭司たちが契約の箱を至聖所に安置して神殿から出て来た時、主の栄光を現わす雲が神殿に満ちました。主の栄光が神殿に満ちたことによって、契約の箱が置かれた神殿に神が臨在されることを民に示されたのです。

旧約時代、神は最初、移動式テントの幕屋に臨在されました。そして神殿が完成し、契約の箱が至聖所に置かれた時、今度は神殿に神が臨在され、神がイスラエルの民と共にいることを表されたのです。

では新約時代には、神はどのようにしてご自分の民と共におられるでしょうか。それはイエスを救い主を信じる者の心のうちに、キリストの御霊である聖霊が住まれることによって神は私たちとともにおられます。私たちはイエスが十字架で流された血によって罪を赦され、新しい契約の民とされました。そして、神は新約の民一人ひとりを聖霊の宮とし、また信徒の集まりである教会を神の宮としてくださいました。ですから新約時代に生きる私たちには、もはや旧約の神殿は必要ありません。

また神のことばである聖書を通して、神は私たちを養い、導かれます。ですから新約の民には契約の箱も必要ありません。またキリストの血潮によって罪をきよめてくださるので、動物のいけにえの血も契約の箱の上にある宥めの蓋も必要ありません。私たちは聖餐式において、キリストのからだを表すパンとキリストの血を表す杯をいただくことによって、すべての罪を赦され、新しい契約の民とされていることを確認します。新約の民はイエス・キリストを通してすべての恵みをいただいていることを覚えましょう。

2. ダビデへの約束　12－21

12-13【12 そのとき、ソロモンは言った。「主は、黒雲の中に住む、と言われました。13 私は、あなたの御住まいである家を、確かに建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」】ソロモンは神殿に主の栄光を現わす雲が満ちた時、自分が建てた神殿を神は受け入れられたことを喜び、「私は、あなたの御住まいである家を、確かに建てました」と言って感謝しました。

次の14-21はソロモンが全会衆を祝福するとともに、神がダビデに約束されたことを成就してくださったことを語っています。

14-21【14 それから王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は起立していた。15 彼は言った。「イスラエルの神、主がほめたたえられますように。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて、こう言われた。16『わたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日からこのかた、わたしは、わたしの名を置く家を建てるために、イスラエルの全部族のうちのどの町も選ばなかった。わたしはダビデを選び、わたしの民イスラエルの上に立てた。』17 それで私の父ダビデの心にはいつも、イスラエルの神、主の御名のために家を建てたいという思いがあった。18 ところが主は、私の父ダビデにこう言われた。『あなたの心にはいつも、わたしの名のために家を建てたいという思いがあった。その思いがあなたの心にあったことは、良いことである。19 しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ。』20 主はお告げになった約束を果たされたので、私は主の約束どおりに父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に就いた。そしてイスラエルの神、主の御名のためにこの家を建て、21 主の契約が納められている箱のために、そこに場所を設けた。その契約は、主が私たちの先祖をエジプトの地から導き出されたときに、彼らと結ばれたものである。」】

神は神殿を建てるためにダビデを選ばれました。それでダビデの心はいつも、神殿を建てたいという思いがありました。けれども、主はダビデに対して、あなたが神殿を建ててはならない、あなたの子が神殿を建てるのだと言われたのです。そして主はお告げになった約束を果たされたので、ダビデの子ソロモンが主の宮を建て、契約の箱を神殿の中に置くことができたとソロモンは言って、神をほめたたえました。このようにソロモンは自分が神殿を建てることができたのは、神がダビデに約束されたことを神ご自身が果たしてくださったからだと告白しました。

実は神のダビデに対するこの約束は二重の意味の約束となっています。一つはダビデの子によって主の家である神殿を建てることです。もう一つは、ダビデの子孫から救い主が出て、その救い主が永遠の神の国を建てるということです。19 節の「しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ」の脚注にはⅡサムエル 7:12,13 があります。そこにはこうあります。【あなたの日数が満ち、あなたが先祖と共に眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立される。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。】

ダビデの身から出る世継ぎの子の「世継ぎの子」は原語では「子孫」という言葉です。「子孫」は救い主の預言の鍵言葉で、救い主は、女の子孫、アブラハムの子孫、ダビデの子孫から生まれるのです。そしてこのダビデへの神の約束が成就して、ダビデの子孫であるイエス・キリストが救い主として生まれました。そしてキリストは永遠の神の国の王となり、キリストを信じる者を永遠の神の国に招かれるのです。ソロモンは 20 節で「主はお告げになった約束を果たされたので」自分が神殿を建てることができたと言って、神をほめたたえました。新約の民とされた私たちは、「主はお告げになった約束を果たされたので」、ダビデの子孫から救い主イエスが生まれ、永遠の御国を建てて、私たちを御国の民としてくださったと言って、神をほめたたえましょう。

3. 奉献の祈り　22－30

22-61 までソロモンの神殿奉献の祈りです。今日は 30 節まで見ていきます。

22-24【22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、23 こう言った。「イスラエルの神、主よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。」24 あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。】

ソロモンは神をほめたたえ、心を尽くして御前に歩む者に対して、契約と恵みを守られる方ですと告白しました。そしてダビデへの約束を成し遂げてくださいましたと祈りました。

25-26【25 そこで今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。26 今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。】

次にソロモンはダビデに約束されたように、ダビデの子孫たちがダビデのように主に従うなら、ダビデ家から王が断たれることはないという約束を果たしてくださいと祈りました。

27-30【27 それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。28 あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。29 そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われたこの場所に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。30 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦しください。】

ソロモンは謙遜に、天地の造り主なる神が、自分が建てた神殿に住まれることなどあるのでしょうかと言いました。そして、神殿に『わたしの名をそこに置く』と約束されたので、神殿に御顔を向けてくださり、神殿に向かって祈る祈りを天において聞いてくださいと祈りました。そして神殿に向かって祈る願いと罪の赦しを聞いてくださいと祈りました。イスラエルの民は、この後、神殿に向かって祈るようになりました。バビロン捕囚になり、神殿が破壊されても、ユダヤ人はエルサレムに向かって祈りました。そして、ゼルバベルが神殿を再建した後、再び神殿に向かって祈りました。

では新約の民である私たちはどうでしょうか。クリスチャンはどこか特定の場所に向かって祈ることはしません。私たちはどこにあっても、イエスの名によって、父なる神に祈ります。イエスはヨハネ 16:23 で「わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます」と約束されました。それはイエスが私たちと父なる神の唯一の仲介者だからです。私たちがイエスの名によって祈る時、イエスを通して私たちの祈りが父なる神に届けられるのです。ですから私たちはいつでもどこでも、イエスの名によって父なる神に祈ります。

私たちもソロモンのように、みことばの約束を信じて祈ります。また私たちの願いを神に祈ります。私たちは自分の願いを祈る時、神のみこころを求めて祈ります。そうすれば、神は私たちの願いを聞いて、一番良い神のみこころにかなう答えを与えてくださいます。また私たちも罪の赦しを祈ります。Ⅰヨハネ 1:9 には「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」とあります。この神の約束を信じ、イエスの十字架の贖いを信じて祈ります。

ソロモンは熱心に心から神に神殿奉献の祈りをしました。私たちもイエスの名によって、父なる神に、絶えず、たゆみなく祈りましょう。神は私たちの祈りを喜んで天において聞いてくださいます。